

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 加太・和歌の浦の活性化による移住促進プロジェクト

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち

関連のある数値目標:転入者数 8,775人/年(H30)→ 9,300人/年(R6)  
観光入込客数 669万人/年(H30)→ 715万人/年(R6)

1 事業概要

<b>事業目的</b>	①友ヶ島など観光客誘客に大きな成果がでている市北西部に位置する加太エリアにおいては、豊かな自然を生かした観光やスポーツによる交流人口の増加を図るとともに、東京大学の研究所等と連携し、アート等によるブランディングを行い、ターゲットを定めて訴求し、関係人口を増加させ、二地域居住を含む移住・定住地として選ばれるエリアとなることを目指す。 ②2017年に文化庁より「絶景の宝庫和歌の浦」として日本遺産の認定を受けるなど、風光明媚な景観や歴史的な祭り・芸能など文化活動が盛んである市南西部の和歌の浦エリアにおいては、芸能・歴史を生かしたまちづくりによる交流人口の増加を図るとともに、地域に根差した産業である漁業について、観光施策と融合した取組を展開し、長期滞在型の観光エリアをめざすことで、域内消費の拡大や域内の良好な経済循環を図る。		
<b>実施年度</b>	R4	<b>事業費(千円)</b>	54,782,492円 (うち交付金充当27,291,376円)
<b>実施内容</b>	加太観光協会や漁協、自治会など地域の主要なメンバーで構成された加太まちづくり会社や和歌の浦における歴史的風致維持向上支援法人など地域団体が主体となり、民間事業者や地域住民との合意形成を図りながら、環境・アート・歴史を軸に地域資源のブランディング強化と、効果的なプロモーションを行い、加太・和歌の浦エリアの活性化や移住定住の促進を図る。 (R4主な事業) 【加太エリアの活性化】 ・友ヶ島の受け入れ体制強化 【和歌の浦エリアの活性化】 ・和歌祭400年記念祭 【移住・定住に向けたプロモーションに係る経費】 ・移住者受入支援		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値(H29)	目標値(上段)					
		実績値(下段)					
		H30	H31	R2	R3	R4	R5
加太・和歌の浦エリアへの転入者数(単位:人)	214	219 194	231 199	251 194	274 172	299 212	303
加太・和歌の浦エリアにおける空き家・空き店舗の活用件数(単位:件)	0	0 2	2 2	6 7	14 12	18 22	24
加太・和歌の浦エリアへの観光客数(単位:千人)	3,962	4,012 4,170	4,062 4,327	4,152 2,934	4,242 2,996	4,262 3,580	4,292
和歌の浦エリア漁業従事者数(単位:人)	151	156 137	161 134	171 136	186 134	196 130	206

3 事業効果

		<b>本事業終了後における事業効果</b>
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	過年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大部分のKPIについて目標の達成は芳しくなかったが、観光需要の高まりや、本事業を通じたメディアへの露出増加等に伴い、加太・和歌浦エリアへの注目が集まったことにより、前年度から改善傾向にあるKPIもあることから、取組が前進しているものとする。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

#### 4 行政評価委員会による評価

評価	意見(評価できる点や改善点等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあったが、各事業を丁寧を実施していた。</li> <li>・KPIについて、加太地区では転入者数が増加しており、空き家・空き店舗の活用件数については、目標をクリアしている。</li> <li>・一部の事業で、地元の理解と協力が得られており、行事が盛況だった。</li> </ul> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナが3年目に入り、2年間の経験からもう少し工夫ができたのではと思われる。</li> <li>・和歌浦地区の転入がやや少ないこともあり、もっと加太・和歌浦へ転入が増加しない理由の分析が必要である。</li> <li>・観光客数増が短期的にとどまっているように見え、長期的に観光客数増につながる目玉的なものが必要である。</li> <li>・友ヶ島の受け入れ体制について、幅広く活動してほしい。</li> <li>・移住者受け入れ支援のアピール方法について検討いただきたい。</li> </ul> <p><b>【その他意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KPIの未達成が、本当にコロナのためだったのかよく再評価していただきたい。</li> <li>・メディアへの露出を強力にしてほしい。</li> </ul>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

# 地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 **新技術の活用と海外展開の支援による産業振興**

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ:安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

基本目標Ⅳ:誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち

関連のある数値目標:新商品の開発件数 5件/年(R1)→ 5件/年(R6)  
 企業立地による新規雇用者数 84人/年(H27~30平均)→ 84人/年(R6)

## 1 事業概要

<b>事業目的</b>	これまで本市は「安定した雇用を生み出す産業が元気なまち」を目指し、地域産業の発展および経済の活性化を図ってきた。創業件数はH28-30で355件と目標(272件)を上回り、農業産出額は近年3-6%の伸びを見せるなど、一定の成果も見られる。他方、IT等新技術の導入割合や製造業の海外販売割合の低さ、若年層の人材流出や交通ネットワークの非効率性など、産業が発展する上で課題もある。本市はこれらの課題を伸びしろであると捉え、支援を必要としている市内企業が生産性向上や海外展開・販路拡大に積極的に取り組めるよう支援するとともに、人材や働く場所の確保や交通ネットワークの充実を図るなど経済活動を円滑にする基盤を整えることで、市内企業が各々の持つ強みやポテンシャルを發揮して、域内外から稼ぐ力が最大限高まり付加価値額を増大させることで、本市経済の活性化を目指す。		
<b>実施年度</b>	R4	<b>事業費(千円)</b>	42,607,010円 (うち交付金充当21,114,970円)
<b>実施内容</b>	IT等導入による生産性向上の重要性について啓発するセミナーの開催やIT等を導入する際の経費の補助、AI・IoT・ロボット等先端技術を活用した事業での創業者への補助などIT等新技術活用の支援をするとともに、海外・県外への販路開拓のため国内外で開催される大規模な展示会・見本市等への出展に係る費用の補助や輸出支援、地元商工業の優れた技術や商品の魅力を周知するための補助、姉妹都市等との交流における物産展等や販路拡大支援等を行う。加えて、学生や女性のため合同企業説明会等による市内企業の雇用促進、企業立地アドバイザーを活用した企業誘致の推進による産業を支える人・働く場所の確保やに取り組む。 (R4主な実施事業) 【IT等新技術活用の支援】 ・IT・IoTツールの導入補助 【海外展開・販路拡大の支援】 ・国内で開催される見本市への出店補助 【産業を支える人・働く場の確保】 ・合同企業説明会、オンライン企業研究会		

## 2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (R1)	目標値(上段)			
		実績値(下段)			
		R2	R3	R4	
製造業の粗付加価値額(単位:億円)	5,705	5,763.0 6,056.5	5,822.5	5,883.5	
本市の支援を通じて新たにIT等新技術を導入し、生産性の向上・新たなビジネスモデルの創出・新商品やサービスの開発・業務プロセスの改善等が実現した企業数(単位:件)	0	4 9	9 16	15 20	
本市の支援を通じて新たに海外販路開拓をし、売上を増加させた企業数(単位:件)	0	4 0	9 1	15 3	
本市の支援を通じて市内に進出した企業又は事業規模を拡大した企業の新規雇用者数(単位:人)	0	80 174	164 225	252 288	

## 3 事業効果

		<b>本事業終了後における事業効果</b>
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<b>B</b>	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、展示会自体が中止となったり、事業者が展示会への出展を控えたこと等により、海外販路開拓関連のKPIは未達成であった。 一方で、これまでの事業の周知が進んできたこともあり、市内企業のIT等新技術の導入への関心の向上や企業誘致の推進につなげることができ、半数のKPIが目標を達成していることから、本事業による成果が概ね得られていると考えられる。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が進み・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

#### 4 行政評価委員会による評価

評価	意見(評価できる点や改善点等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の事業の推進等は丁寧に行われている。</li> <li>・市内に進出した企業の新規雇用者数288人より、企業誘致の推進につなげることができている。</li> <li>・「安定した雇用を生み出す産業が元気なまち」をつくるため、事業内容に工夫を凝らしている。</li> </ul> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術の活用という点に基づく取組を進めていただきたい。</li> <li>・企業誘致について、県との協働体制を築いたり、市の事業内容や成果についてもっと自信をもって公表するなどしていただきたい。</li> <li>・ドローンの実験事業などの位置づけを、もっと明確にしてほしい。</li> <li>・若手層の市外への流出を止める方法について検討いただきたい。</li> <li>・企業誘致に関するアドバイザー業務に、成功報酬を導入することで、モチベーション向上につなげていただきたい。</li> </ul> <p><b>【その他意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの実施だけではなく、サービス業の海外展開支援なども必要である。</li> </ul>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	

地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 関空立国デスティネーション化推進計画

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標 I : 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち

関連のある数値目標: 観光入込客数 669万人/年(H30) → 715万人/年(R6)  
観光消費額 47,554百万円/年(H30) → 52,025百万円/年(R6)

1 事業概要

事業目的	関西国際空港は2011年のLCC便の就航開始以降、総発着回数、総旅客者数が2018年度では過去最高となり、インバウンド客をはじめとする来訪者が空港利用者数の伸びと比例して急増している。このような状況下において、空港に近いという地理的優位性と交通利便性の強みを活かし、夜間の消費喚起につなげるナイトタイムエコノミーの推進や新たな観光資源の創出等による観光客の目的地化を図るとともに、地域間連携の強化による周辺地域への出発地としての機能強化を図る。		
実施年度	R4	事業費(千円)	1,764,000円 (うち交付金充当882,000円)
実施内容	<p>タビマエ・タビナカでの泉佐野市や和歌山市、紀の川市のインバウンド等の嗜好に合わせた情報をWEB上で発信することで、目的地として選定してもらい、地域での消費喚起による経済循環を作り上げる。</p> <p>【和歌山市】 インバウンド客の獲得に向けて、観光施設や飲食店情報、モデルコース等、旅行者の需要に応じた情報発信などにより観光誘客を図る。</p> <p>(R4主な実施事業) 【インバウンド誘客促進事業】 ・観光情報発信事業</p>		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値 (H30)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R2	R3	R4	R5	
市内宿泊施設のインバウンド宿泊者数(単位:人) ※泉佐野市、和歌山市、紀の川市の合計	1,040,000	1,165,000	1,295,000	1,435,000	1,631,000	
(仮称)りんくう野外文化音楽堂の利用者数(単位:人)	0	0	500	3,500	10,000	
ガストロミーツーリズムの利用者数(単位:人)	0	100	350	750	1,350	
当該事業による消費効果額(単位:千円)	0	320,000	660,000	1,120,000	1,816,000	
		250,000	160,000	300,000		

3 事業効果

		<b>本事業終了後における事業効果</b>
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	新型コロナウイルス感染症の影響による海外渡航制限等で、メインターゲットであるインバウンドが激減したことにより、大部分のKPI目標の達成は芳しくないものの、令和4年10月からの規制緩和や、全国的な観光需要の高まりに乗じた事業実施によって、全てのKPI実績値が令和4年度より増加傾向にあることから、取組が前進しているものと考えます。
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

#### 4 行政評価委員会による評価

評価	意見(評価できる点や改善点等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットを行い、適切に情報発信を行っている。</li> </ul> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泉佐野市と情報をすり合わせ、同じ主体として実施した方が良い。</li> <li>・インバウンド客の獲得に向けて、多様な方法での情報発信が必要である。</li> <li>・アクセスの多い項目について、アクセス数と実際に来訪しているのかの測定ができれば、更に効果を上げられるのではないかと。</li> <li>・コロナや円高で外国人観光客が減少したときの対処方法について検討すべき。</li> </ul> <p><b>【その他意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の効果が出てきた時、オーバーツーリズムにならないよう、対策を検討してはどうか。</li> <li>・外国人観光客に対する過剰なおもてなしが行われる傾向にあることへの不安。</li> </ul>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	



地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 まちなか活力再生と市民総活躍のまちづくり

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅱ:住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
基本目標Ⅳ:誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
関連のある数値目標:まちなか居住人口の比率 8.84%(H30)→ 9.24%(R6) まちなみの美しさに対する市民満足度 24.6%(R1)→ 25%(R6)

1 事業概要

事業目的	<p>和歌山市駅から和歌山城を中心としたエリアでは、キーノ和歌山や商店街などの商業施設、こども科学館や博物館などの公共施設、和歌山城を集客拠点とし、国民文化祭開催のタイミングと合わせて市内外から多くの人を集め夜間を含めた全体の回遊性を高めながら、多世代の交流や滞在時間の延長と消費を促すことができる仕組を構築する。また、郊外の地域拠点において、住民が主体となり、地域の特色を生かしたまちづくりを推進し、市街地での取組と有機的に結びつけ、まちの持続的な発展につなげる。</p> <p>そしてこれらの取組について、若者をメインとした地域住民が一丸となって、民間と連携し市全体の魅力の向上やPR活動、賑わいづくりに自主的かつ持続的に取り組んでいくことができるまちづくりを目指す。将来的には、若者の地元定着につなげていく。</p>		
実施年度	R4	事業費(千円)	120,342,108円 (うち交付金充当54,066,052円)
実施内容	<p>①地域と連携し新しい生活様式に対応した商店街の活性化 商業団体や個店等が3密対策や時間帯誘導、商店街の魅力を発信するために行う事業や夜間の賑わいの創出が見込まれる事業に対し支援を行う。また、商店街の空き店舗等を活用した新規出店にチャレンジしやすい環境づくりや、若者と連携した若者目線による商店街の活性化を図る。</p> <p>②市街地の誘客性の向上 市のシンボルである和歌山城や、市街地にある拠点の誘客性を高め、拠点利用者を増加させることにより夜間も含めた市街地の流動人口の増加と拠点間の回遊を促進する。</p> <p>③地域拠点の機能強化 郊外にある地域拠点を地域住民や地域の団体等民間主導によるまちづくりを推進し、地域の高齢化や人口減少等の地域課題を解決し地域の特色を活かした地域拠点の形成により人口流入を図る。</p> <p>(R4主な実施事業) 【地域と連携し新しい生活様式に対応した商店街の活性化】 ・空き家・空き店舗を活用したお試し出店 【市街地の誘客性の向上】 ・和歌山城でのおもてなし体制の充実 【地域拠点の機能強化】 ・公共空間の賑わい創出や個性豊かな地域づくりに係る支援</p>		

2 KPI(重要業績評価指標) 目標及び実績

KPI	基準値 (R1)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
まちなか流動人口(単位:人)	34,850	34,950 38,191	35,220 38,308	36,130		
まちなかの空家・空き店舗を活用したリノベーション件数(単位:件)	0	5 6	11 13	18		
和歌山市駅の1日当たり乗降客数(単位:人)	16,455	16,555 12,714	16,670 14,373	16,785		
地域住民によるまちづくり活動に対する市民満足度(単位:%)	14.1	14.6 7.8	15.3 10.0	16.0		

3 事業効果

本事業終了後における事業効果	
<p>A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)</p> <p>B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)</p> <p>C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)</p> <p>D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えない場合)</p> <p>E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)</p>	<p>B</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大きく落ち込んだKPIについては、回復傾向にあるものの、令和4年度時点での目標達成には至らなかった。 一方で、商店街や有吉佐和子記念館等でのイベント実施等により、まちなかのコンテンツが増加し、結果としてまちなかの魅力が向上したことから、全てのKPIが増加傾向にあり、概ね成果が得られているものと考えます。</p>

#### 4 行政評価委員会による評価

評価	意見(評価できる点や改善点等)
A:本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">C</p> <p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・にぎわい創出、空き店舗対策等、様々な事業を実施している。</li> <li>・一部の商店街で動きが出ているように、商店街の活性化に向けた取組を実施している。</li> </ul> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト内の各事業が、どのような関連性を持ち、効果を発するのか考えながら事業を実施いただきたい。</li> <li>・和歌山市駅、和歌山駅のどちらからも和歌山城が見えないなど、全体的なまちづくりができていない。</li> <li>・今回は南海和歌山市駅を中心とした内容だが、市内全体を考えると、JR和歌山駅周辺の発展も非常に重要である。</li> </ul> <p><b>【その他意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街を商店街として復活させるのではなく、まず住む場所として人口を増加させることにより、必要な商店が開業するという流れを目指すなど検討いただきたい。</li> </ul>
B:本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)	
C:本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)	
D:本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)	
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)	



地方創生推進交付金プロジェクト 検証シート

プロジェクトの名称 わかやましゲートウェイ・プロジェクト～食と農水産と観光の融合～

[まち・ひと・しごと創生総合戦略との関連]

基本目標Ⅰ: 安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
基本目標Ⅱ: 住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
関連のある数値目標: 観光入込客数 669万人(H30) → 715万人(R6) 観光消費額 47,554百万円(H30) → 52,025百万円(R6)

1 事業概要

事業目的	四季の郷公園に本市初の道の駅(令和2年7月)、中央卸売市場の総合食品センター棟「わかやままるしえ」(令和2年7月)の農・水産物の発信拠点がオープンした。これら2つの拠点に加え、新市民図書館(令和2年6月オープン)を含めた南海和歌山市駅前再開発、和歌山城ホールの整備(令和3年7月)などの本市の新たな拠点と南海和歌山市駅周辺の市街地を観光や物流の玄関口として最大限に活用する。加えて農業のブランド化・高付加価値化を促進することで持続可能で未来に希望の持てる農業を育成し、観光と食(農業)の効果的な融合により、観光客の周遊や観光消費の拡大を推進する。		
実施年度	R4	事業費(千円)	88,890,443円 (うち交付金充当38,443,106円)
実施内容	令和2年7月に本市初となる道の駅が四季の郷公園にオープン(本市東部)、令和2年7月に中央卸売市場に総合食品センター棟がオープン(本市西部)、新市民図書館の再整備等と和歌山市駅前の再開発や和歌山城ホールの整備が進んでいる(本市中心市街地)。本市の新たな拠点を活用し、地場産業と観光を融合させた施策を展開し、観光消費額の拡大を図る。 (R4主な実施事業) 【和歌山市を売り出す(効果的なプロモーション)】 ・観光情報発信事業 【和歌山市へ招く(体験型観光コンテンツの充実)】 ・観光地周遊型スポーツイベント 【和歌山市でもてなす(地域資源を活用したおもてなし体制の充実)】 ・野菜等産地強化事業		

2 KPI(重要業績評価指標)目標及び実績

KPI	基準値 (R1)	目標値(上段)				
		実績値(下段)				
		R3	R4	R5	R6	R7
観光消費額(単位:百万円)	47,554	23,777 34,702	33,337 41,419	47,787		
年間宿泊客数(単位:千人泊)	959	479 744	672 873	982		
四季の郷年間来場者数(単位:万人)	8	8 17	21.3 23	28.5		
中央卸売市場食品センター棟の年間売上額(百万円)	60	61 52	63 58	66		

3 事業効果

		本事業終了後における事業効果
A: 本事業は地方創生に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	B	新型コロナウイルス感染症の影響により過年度で実績値が落ち込み、目標達成できていないKPIも見受けられるものの、全国的な観光需要の高まりやこれに乗じた観光客を呼び込む事業の実施により、大部分のKPIが目標を達成し、全てのKPIで実績値が前年度より増加していることから、本事業が地方創生に対し相当程度効果を表しているものとする。
B: 本事業は地方創生に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね効果が得られたとみなせる場合)		
C: 本事業は地方創生に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D: 本事業は地方創生に対して効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言えないような場合)		
E: KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		

#### 4 行政評価委員会による評価

評価		意見(評価できる点や改善点等)
A:総合戦略のKPI達成に非常に効果的であった (KPI実績が目標値を上回ったなどの場合)	C	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅事業についてはある程度の効果があり、今後もイベント等を増やしていけばいいと思う。</li> <li>・観光情報発信は以前に比べて、発信数、内容も良くなっている。</li> <li>・コロナ前の目標設定にも関わらず、大半を達成できている。</li> </ul> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光情報発信事業の再生回数や視聴率などの情報の収集、分析に基づく次の企画という流れを作ってほしい。</li> <li>・農業関連の事業について、アピールを増やすべき。</li> <li>・各数値や効果、成果などについて、もっとアピールしてほしい。</li> </ul>
B:総合戦略のKPI達成に相当程度効果があった (KPI実績目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合)		
C:総合戦略のKPI達成に効果があった (KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合)		
D:総合戦略のKPI達成に効果がなかった (KPI実績が開始前よりも悪化した、もしくは取り組みとしても前進・改善したとは言い難いような場合)		
E:KPI達成状況に基づく評価が困難 (新型コロナウイルス感染症など予見できなかった外的要因によりKPI実績が著しく低くなったことなどから、事業による効果を図ることが難しい場合)		